

第 2 表 E. robusta の挿木活着並発根調 (196本に付)

○挿穂の種類 (部位別)

上～主幹, 枝の採穂した一番下のものので一番太いし組織も固い。
 中～ 〳 中間のもので組織は上よりやや軟弱。
 下～ 〳 先端で生長点をつけたものので一番軟い。

○母木本数56本～挿穂本数196本

○施行月日 6月20日 調査月日 8月20日

○活着並発根数

区分	挿付本数	活着本数	活着率	発根本数	発根率
上	59	24	40%	24	100%
中	40	0	0	0	0
下	97	30	30%	27	90%

カルスは小さい。発根数は1本当平均10本位, 長さ 1~1.5cm 位

20日に転勤のため全部掘取りその活着発根状態を調べた結果は第2表の通り。

大体以上の様な結果となつたが, 再度実施してよい結果を期待したい。いう迄もなくユーカリタンニアカシア等の移植成績の芳ばしくないその最大原因は地上部の組織が軟弱で水分の蒸発が烈しい即ち乾燥し易いこと。根部に細根が少ない直根性であるため活着が悪いことが二大欠点と思われるがこれを漸次改良してゆけば近い将来立派な造林地も出来るものと確信している。それには一昨年来アカシア, モリシマについて福岡県林業試験場で研究発表されている地上部の適度

の剪定と根部の根切り法がよい方法でこれをユーカリ樹にも応用出来ると思う。それで3月採種, 6月頃適度の剪定を行い, 剪定せるものは挿穂に利用し根部は8月頃根切を行い1本の苗木より4~5本の苗木を然も活着のよいものを作りたい。

globulus 以外のものなら大体適用出来ると思うし globulus でも4, 5年生のものから採穂すれば発根可能と思われる。

(最後に之が実施に御協力下された延岡市役所林務係長志賀氏, 日本ユーカリ研究所古久保氏に御礼を申す。)

メ タ セ コ イ ヤ の 挿 木 に つ い て

佐賀県林業試験場 小 谷 内 正 一

現在メタセコイヤは挿木に依つて増やされつつあるが, 実際これを行つて見た経験では, 次の諸点に注意して実施した方が無難な様である。

第1 苗圃内か若くはその近辺に採穂木の設置が望ましい。特に少ない母樹から多く増やすためには目下のところ新芽をも利用して挿付せねばならないので, 採穂木は是非設けた方がよい。

第2 新芽の挿付, 所謂当年伸長した枝葉を採つて挿付するには, 4月末から6月初め迄の間が良い。尙この際に, 採つた挿穂が直ぐしおれ易いので, 小雨か本曇のち雨という天候の日を選んで挿付すれば一層安全である。

第3 挿穂の切口を一旦鋭利な刃物で切り直し, 粘土汁処理に依つて挿付すると良い。又は粘土汁を予め準備して穂の採取と同時にこれに浸漬の上,

挿付を行つても結構である。

第4 挿穂 (当年伸長した枝葉) の軟かい先端を僅か切り詰めると, 取扱いが安全であり, 活着率もわりあい良い様である。

第5 挿付してから日覆と灌水には充分注意せねばならぬ。就中挿付して数週間は灌水に絶えず注意し, その励行が肝要である。

以上の事実は, 次表に掲げる昭和28. 29年度中に新芽を採つて挿木した成績に基くものであるが, 更にその要領でも実験を試み, 一層メタセコイヤ増殖普及に資し度いと思う。

摘 要

(イ) 挿穂は採つてから乾燥には充分予防した積りであるが, 日時を過るに従い, 5でも分る通り活着

番号	挿付年月日	苗床の種類	穂拵要領	挿付数	活着数	活着率	備考
1	昭28.5.6	川砂5. 鹿沼土5	切直そのまま無処理	100	35	35	平均幹長 22cm 根元直径 0.6cm
2	〃	〃	切直し粘土汁処理	100	74	74	
3	〃	〃	〃 粘土団子	608	541	89	
4	28.8.25	〃	〃	1,200	427	36	活着したもの冬芽の形成を見ず、翌春枯死 挿穂は4月23日採取挿付は雨天である。 挿穂は採つて直ぐ挿付、雨天日施行。
5	29.4.25	圃場苗床	切直し粘土汁処理	151	46	31	
6	〃 4.25	〃	〃	100	72	72	〃 本曇のち雨
7	〃 4.29	〃	〃	1,334	1,105	83	
8	〃 5.1	〃	〃	1,093	926	85	〃
9	〃 5.7	〃	〃	993	790	80	〃 曇天日
10	〃 5.9	〃	〃	940	809	86	〃 本曇のち雨
11	〃 5.14	〃	〃	1,400	1,162	83	〃 雨
12	〃 5.17	〃	〃	1,100	857	78	〃 雨のち本曇
13	〃 6.1	〃	〃	1,060	844	80	〃 本曇のち雨
14	〃 6.5	〃	〃	1,080	718	67	〃
15	〃 6.6	〃	〃	220	98	45	〃 雨
16	〃 5.20	ガラス室内普通土	〃	304	245	81	
17	〃 6.8	〃	〃	864	539	62	
18	〃 6.14	〃	〃	3,532	1,901	54	
19	〃 5.20	〃	切直し粘土団子	494	412	83	
20	〃 6.26	〃	〃	190	139	73	
21	〃 6.26	〃	葉先端切詰め切直し粘土団子	1,378	1,154	84	

が悪くなる。

ある。

(ロ) 同一条件に於て比較した場合に挿付期日が遅い程一般に活着が悪い。4. 15. 18. 20. の通りで

カ) 本成績表の1~4迄は秋季成績5~21迄は挿付後概ね40~50日目の成績である。

メタセコイヤ造林について (第2報)

佐賀県林務課 安 館 菊 三

I 緒 言

山地造林した場合に迫る生長経過を知り今後の造林方法研究の一助とする目的で昭和28年3月以来連年継続施行中のものである。

II 地 況

藤津郡嬉野町試験林内27年度スギ伐跡地で基岩は玄武岩、長石質礫岩、北西面の平均勾配10度の壤土である。年平均気温16°C、28年の年間降雨量は3,276mm、降雨日数165日である。

III 植 栽 方 法

28年度分の面積3反歩、斜面に平行して19列、その

うち外側3列はスギ100本、続く16列にメタセコイヤ686本を植栽した。植える要領はスギの方法と同様にし、石灰及び堆肥は2週間前に植穴に施した。施肥量は次の通りである。

石	灰	225gm
堆	肥	7.5kg
粒	状	肥料
120gm		
団	形	肥料
160gm		

29年度も3反歩、前年同様の要領によりメタセコイヤ苗854本、スギ苗101本を前年度の隣接地に29列に施行した。

本年は堆肥を施用していない。施肥量は前回同様とした。